



図3 「百鬼夜行繪巻」



図4 「百万塔陀羅尼」の塔

図書の文化史 (2002) 第2回

2002年7月1日～10月30日

司書・司書教諭課程「図書館学総論」の授業と連動して、図書の歴史を物語る現物の資料 — 粘土板、中世写本、インキュナビュラ、16、17世紀の刊本 — に展示を通して触れてもらいました。

日本近代の詩人 第3回

2002年11月12日～2003年4月30日

和泉図書館に設置された「日本近代文学文庫」より詩集、歌集を選択して37点を展示。島崎藤村『若菜集』、与謝野晶子『みだれ髪』【図2】など近代文学史を華麗に彩った名詩集、名歌集が揃いました。

図書の文化史 (2003) 第4回

2003年5月26日～7月31日

2002年度に引き続き、開催。ダンテ『神曲』(1502年 ヴェネチア アルドゥス・マヌティウス版)、などの16世紀刊本が新たに加わりました。

新収貴重書展 第5回

2004年3月10日～5月15日

2002年度に新たに蔵書となった資料のうち、貴重書をメインに展示。ホップス『リヴァイアサン』(1651年)、和書では『百鬼夜行繪巻』(江戸中期以降写)【図3】などを展示しました。

図書の文化史 (2004) 第6回

2004年7月5日～7月31日

2003年度に引き続き、開催。新たにアウグスティヌス『神の国』(1473年)を展示しました。日本の印刷史のコーナーを設け、世界最古の印刷物のひとつである『百万塔陀羅尼』【図4】なども出ました。

